

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成等に関する研究

研究分担者 飯島尋子 兵庫医科大学 消化器内科学 教授

研究要旨

兵庫県は東西南北に広く、人口 540 万人である。兵庫県の肝疾患診療に関わる二次医療圏の各医療機関とのネットワークを構築し、中核施設を中心に県下全域の医療機関や職域を含めた県民への啓発活動を目的に活動を開始している。二次医療圏は 10 圏域あり、それぞれ肝炎医療コーディネーター（肝 Co）を配置し活動支援を行い、「兵庫モデル」の確立を目指している。この数年は Covid-19 の感染蔓延により、県民のみならず医療従事者への対面での啓発活動が制限されており、紙面や Web での啓発資材の活用と推進が急務となっている。そこで、肝 Co の配置と配布媒体やデジタルコンテンツなどの活用による活動推進の効果検証を行った。

A. 研究目的

兵庫モデルの確立のため、二次医療圏における肝疾患診療の均てん化と肝 Co の活躍促進、コロナ禍において啓発ツールとしてのデジタルコンテンツの製作を行う。

B. 研究方法

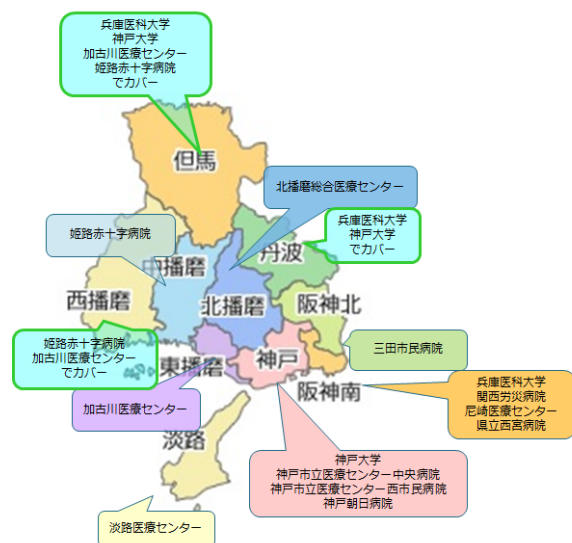
二次医療圏における医療の均てん化の目的で拠点病院、専門医療機関、自治体、医師会等と連携し中核病院の設置を行った。肝 Co の活躍推進のため配置状況の把握、職種毎の人数と専門医療機関の位置情報を加え、今後の配置計画の必要性の見える化を行った。

コロナ禍における情報発信および啓発活動の一環としてデジタルコンテンツと紙面による受診や受検の啓発を行った。

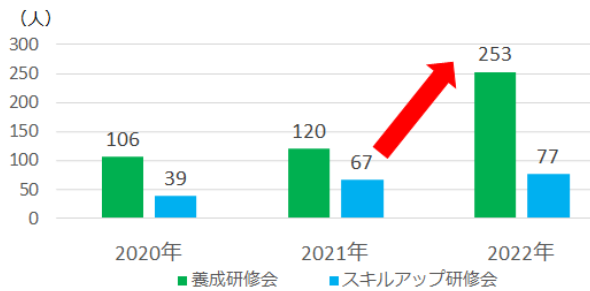
C. 研究結果

二次医療圏での専門医数および肝 Co の配置状況の把握を行うことにより、兵庫県における、中核施設ならびに自治体との連携

により今後の活動の方向が確立した。県内における専門医偏在は明かであったが、拠点病院と中核施設から医師を定期的に派遣し、該当地区の協力医療機関や医師会へ情報を発信し新規医療情報の提供を行うと共に肝 Co の活躍の重要性を理解頂いた。



肝 Co 養成研修会は、コロナ禍よりオンライン開催していたが、2022 年度からはオンデマンド配信も導入することで、参加者が増加した。
各職種の肝 Co による講演や患者会を含むパネルディスカッションなどをプログラムに入れ、内容を充実させた。



肝 Co の活動支援に関しては、患者会も含め 2-3 ヶ月毎に Web ミーティングを行い、各肝 Co の活動での課題を抽出、課題解決のための方法論やサポートについて拠点病院と連携しながら進めてきた。

さらに、肝 Co 動詞の横の連携の強化の 1 つとして、LINE を立ち上げた。



コロナ禍において、デジタルコンテンツや紙面の活用は必須の手法である。

紙面としては、ひょうご《紙上》肝臓病教室を作成し、各施設へ郵送するとともに肝疾患センターのホームページでも閲覧可能としている。



またデジタルコンテンツとして、受診や受診の啓発として、動画を作成した。この動画もホームページから視聴可能としている。



肝 Co が各種の肝疾患患者への運動必要性の啓発ツールとして兵庫県肝臓体操の動画を作成した。これはホームページへ掲載するとともに、DVD を作成し、各専門機関、協力施設に郵送し、活用していただいている。



D. 考察

これまで兵庫県では肝 Co は 1000 人以上養成されているものの、具体的な活動内容に関する不安も多くあり、十分活用出来ていなかった。横の繋がりの強化の 1 つとして LINE を立ち上げたが、今後は二次医療圏にエリアサポート Co 配置し、繋がりの強化を図る。さらに知識や最新の情報を共有するために、年 1 回はレベルアップのためのスキルアップ研修会への参加を推進したい。今後は肝疾患専門医療機関や県全域医療機関への啓発活動も同時に進め、各機関における肝 Co の活動推進に繋げていく。

県民へ広く受検や受診を啓発するためにはウイルス性肝炎拾い上げは、院内連携特に術前スクリーニング検査陽性後の適切な専門医への紹介等の事業の促進、臨床検査技師会との連携が必須と考え、2023 年より協力活動が決定した。さらに、薬剤師会や歯科医師会との連携も重要と考えており自治体への働きを行う必要がある。

E. 結論

二次医療圏における肝疾患診療の均てん化と肝 Co の活躍促進の兵庫モデルの確立した。デジタルコンテンツを制作し、肝炎対

策のステップ「予防」「受検」「受診」の啓発を行った。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

上野 聖子, 多田 俊史, 中村 進一郎, 平井 香恵, 横田 由美子, 谷内 美春, 谷川 真由美, 笹野 優子, 大里 勇二, 江口 有一郎, 飯島 尋子

院内そして地域に根ざした肝炎医療コーディネーターの取り組み

肝臓 63 巻 suppl. (1) 2022, A224, SP2-P-2

山本 晴菜, 江口 有一郎, 矢田 ともみ, 大谷 綾, 中筋 幸司, 上野 聖子, 平井 香恵, 志原 拓磨, 高嶋 智之, 藤本 康弘, 鄭 浩柄, 金 秀基, 多田 俊史, 室井 延之, 山本 宗男, 米澤 敦子, 飯島 尋子

二次医療圏を単位とした自治体、拠点病院、肝炎医療コーディネーターの配置と活動肝疾患診療ネットワーク構築「Hモデル」の構築の基盤として

肝臓 63 巻 suppl. (1) 2022, A219, SP2-0-12

米澤 敦子, 江口 有一郎, 矢田 ともみ, 飯島 尋子

これからは肝炎医療コーディネーターが肝疾患患者を救う時代

肝臓 62 巻 suppl. (1) 2021, A245, SP2-2-15

G. 知的所有権の取得状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

